

貴重な資料 新たに20点

弘大資料館で「旧制弘高100周年展」第2部始まる



第2部ではパネルなど一部資料を入れ替えて展示している



弘大の前身でもある旧制弘高は、最北にあった官立高等学校(学制改革により30年で閉校)。開校100周年を記念し開いた企画展

弘前

弘前大学キャンパス内にある弘大資料館で企画展「旧制弘前高校―みちのく弘前で学んだ学生たちの青春―」の第2部が開かれている。第1部から写真パネルなど展示物を一部入れ替え、貴重な資料の数々で旧制弘高生の暮らしぶりを振り返る。

写真パネル 北溟寮の様子など

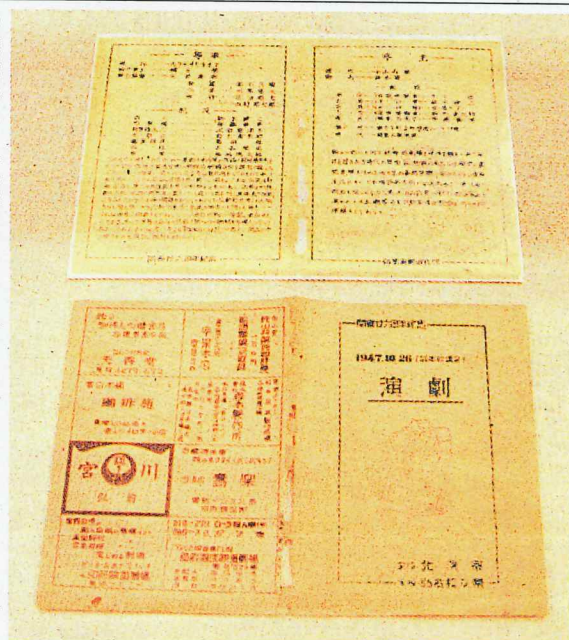


新たに展示された写真機(写真上)と当時の職員が全国に依頼し集めた旧制高校校章(同下)

の続編で、入れ替えにより約20点の新たな資料を追加した。

新たなパネルでは、入寮受け付けや

「パンカラ学生」たちによる歓迎ストーリーなど北溟寮の様子や、現在の人文社会



出演者として鈴木清順(本名・清太郎)さんと、鈴木健二さんの名が残る演劇パンフレット

科学部の辺りにあった正門へと向かう冬の通学風景、運動会のパン食い競争など、当時の様子をうかがい知ることができる。

このほか、寮紙「北溟」や、映画監督の鈴木清順(本名・清太郎)さんと、元NHKアナウンサーで弟の鈴木健二さん兄弟の名が記された演劇の公演パンフレットなどもある。

展示は10月30日までだが、9月30日までは新型コロナウイルス感染症拡大防止のため入館は学内関係者のみ。以降の対応は資料館ホームページで確認できる。

※この記事は陸奥新報社の提供です。

この画像は、当該ページに限って陸奥新報の記事利用を許諾したものです。

転載ならびにこのページへのリンクは固くお断りします。

[問い合わせ先] 弘前大学資料館

jm3432@hirosaki-u.ac.jp